

# デーヴォ ガイド



**2024.8.19-25**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



25:18 親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、

25:19 戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の五人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都にいた民衆六十人を、都から連れ去った。

25:20 親衛隊の長ネブザルアダンは彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ連れて行った。

25:21 バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らを打ち殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。

25:22 バビロンの王ネブカドネツアルは、彼が残したユダの地の残りの民の上に、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを総督として任命した。

25:23 軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がゲダルヤを総督としたことを聞いて、ミツパにいるゲダルヤのもとにきた。それは、ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナン、ネトファ人タンフメテの子セラヤ、マアカ人の子アヤザンヤ、彼らとその部下たちであった。

25:24 ゲダルヤは彼らと部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデア人の家来たちを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。」

25:25 ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、十人の部下とともに来て、ゲダルヤを打ち殺し、ミツパで彼と一緒にいたユダの人たちと

カルデア人たちを打ち殺した。

25:26 そこで民はみな、身分の下の者から上の者まで、軍の高官たちとともに、立ってエジプトへ行った。カルデア人を恐れたからである。

25:27 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十七日、バビロンの王エビル・メロダクは、王となったその年のうちにユダの王エホヤキンを牢獄から呼び戻し、

25:28 優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。

25:29 彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。

25:30 彼の生活費はその日々を、一生の間、いつも王から支給されていた。

南王国ユダの末路が記されています。北王国イスラエルと同じく、神への反逆によって滅ぼされたのです。当時は国と国が戦い、王たちが殺し合い、滅びに継ぎ滅びが起こる時代でした。主が滅ぼしたというよりも、異教の国々のように他国の侵略によって滅ぼされたのですが、それはイスラエルもユダも異教の国々のものであったからです。すなわち神をないがしろにしてきたからです。

それでも主はエホヤキンによくしてくださり、彼の子孫であったゼルバベルが、神殿の再建をできるようにという希望を残してくだされたのです。どんなときにも主のあわれみが残っていることに気づき、主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 20日 火曜

### テサロニケ I



1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたにありますように。

1:2 私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。

1:3 私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。

1:4 神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。

1:5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおります。

1:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

1:7 その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいるすべての信者の模範になったのです。

1:8 主のことばがあなたがたのところから出て、マケドニアとアカイアに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰が、あらゆる場所に伝わっています。そのため、私たちは何も言う必要がありません。

1:9 人々自身が私たちのことを知らせていま

す。私たちがどのようにあなたがたに受け入れてもらったか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、

1:10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスです。

パウロはかつて、アテネからテモテを遣わして、このテサロニケ教会の人々を励ましました。彼らの信仰が、迫害などの困難にはまだ弱かったからです。しかし今は、「あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしている」「信者の模範になった」と言われるほどになっています。

信仰の成長は、全能の主によって実現するものなので、このように可能性に満ちたものです。伝道も養育も癒しも、主に希望をいただきながら進めていきましょう。

「私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いた」とあります。私たちは伝道するときに、理解してもらおう、良い印象を持ってもらおう、プレッシャーをかけないようにしよう、誤解のないようにしよう…などと配慮します。それ自体は良いのですが、人に配慮して人を見るあまり、主の力を見落とす場合があります。救いをもたらすのは、人への配慮ではなく、主の力と聖霊、そして語る者の確信なのだとことです。ですから祈ることによって、それらをしっかりと求め、また頼りつつ福音を伝えてゆきましょう。救いの決心を促してゆきましょう。

テサロニケ教会に集う人々の信仰は、すばらしい評判になって伝わっていたようです。「他の

人々が言い広めている」とあります。自らの評判は、自分で宣伝するものではなく、人々が広めるほうが証しになります。その背後に主が働いておられるからでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 21日 水曜

### テサロニケ I



- 2:1 兄弟たち。あなたがた自身が知っているとおおり、私たちがあなたがたのところに行ったことは、無駄になりませんでした。
- 2:2 それどころか、ご存じのように、私たちは先にピリピで苦しみにあい、辱めを受けていたのですが、私たちの神によって勇気づけられて、激しい苦闘のうちにも神の福音をあなたがたに語りました。
- 2:3 私たちの勧めは、誤りから出ているものでも、不純な心から出ているものでもなく、だましごとでもありません。
- 2:4 むしろ私たちは、神に認められて福音を委ねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせるのではなく、私たちの心をお調べになる神に喜んでいただくとして、語っているのです。
- 2:5 あなたがたが知っているとおおり、私たちは今まで、へつらいのこぼを用いたり、貪りの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。
- 2:6 また私たちは、あなたがたからも、ほかの人たちからも、人からの榮譽は求めませんでした。
- 2:7 キリストの使徒として權威を主張することもできましたが、あなたがたの間では幼子になりました。私たちは、自分の子どもたちを養い育てる母親のように、
- 2:8 あなたがたをいとおしく思い、神の福音だけではなく、自分自身のいのちまで、喜んであなたがたと与えたいと思っています。あなたがたが私たちの愛する者となったからです。
- 2:9 兄弟たち。あなたがたは私たちの労苦と

辛苦を覚えているでしょう。私たちは、あなたがたのだれにも負担をかけないように、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。

2:10 また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことについては、あなたがたが証人であり、神もまた証人です。

2:11 また、あなたがたが知っているとおおり、私たちは自分の子どもに向かう父親のように、あなたがた一人ひとりに、

2:12 ご自分の御国と栄光にあずかるようにと召してくださる神にふさわしく歩むよう、勧め、励まし、厳かに命じました。

伝道は私たちの最大の使命ですが、それは「神に喜んでいただく」ためです。自分の目的達成や評判の ための思いが潜んでいないか吟味しましょう。また「權威を主張」しないことも大切です。救いは 屈服させられるものではなく、自由な心において 神様の愛を十分に感じて決心するものです。また「榮譽を求め」ないことも重要です。救いに導いたことで人から褒められるとしたら、自分の心は 守られたとしても、共同体の価値観が少しずつずれてしまうでしょう。そして「愛」をもって伝道 するものです。あなたはどうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 22日 木曜

### テサロニケ I

2:13 こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。

2:14 兄弟たち。あなたがたはユダヤの、キリスト・イエスにある神の諸教会に倣う者となりました。彼らがユダヤ人たちに苦しめられたように、あなたがたも自分の同胞に苦しめられたからです。

2:15 ユダヤ人たちは、主であるイエスと預言者たちを殺し、私たちを迫害し、神に喜ばれることをせず、すべての人と対立しています。

2:16 彼らは、異邦人たちが救われるように私たちが語るのを妨げ、こうしていつも、自分たちの罪が満ちるようにしているのです。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで極みに達しています。

2:17 兄弟たち。私たちは、しばらくの間あなたがたから引き離されていました。といっても、顔を見ないだけで、心が離れていたわけではありません。そのため、あなたがたの顔を見たいと、なおいっそう切望しました。

2:18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。私パウロは何度も行こうとしました。しかし、サタンが私たちを妨げたのです。

2:19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいだれでしょうか。あなたがたではありませんか。



2:20 あなたがたこそ私たちの栄光であり、喜びなのです。

パウロはテサロニケの人々に真心と愛を持って伝道したので、その伝道したので、その関係は麗しいものであり、しいものであり続けました。ですから「あなたがたこそ私たちの栄光であり、喜び」と言っています。そのようなすばらしい人間関係がもたらされるのですから、それもまた希望として、福音を宣べ伝えましょう。またテサロニケの人々は、パウロのことばを「神のことばとして受け入れ」ました。特に聖書が神のことばとしてある今は、聖書の語られた内容は、それが人を通してであっても、神のことばとして、謙遜に真剣に聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 23日 金曜

### テサロニケ I



- 3:1 そこで、私たちはもはや耐えきれなくなり、私たちだけがアテネに残ることにして、
- 3:2 私たちの兄弟であり、キリストの福音を伝える神の同労者であるテモテを遣わしたのです。あなたがたを信仰において強め励まし、
- 3:3 このような苦難の中にあっても、だれも動揺することがないようにするためです。あなたがた自身が知っているとおりに、私たちはこのような苦難にあうように定められているのです。
- 3:4 あなたがたのところに行ったとき、私たちは前もって、苦難にあうようになるとおっしゃったのですが、あなたがたが知っているとおりに、それは事実となりました。
- 3:5 そういうわけで、私ももはや耐えられなくなって、あなたがたの信仰の様子を知るために、テモテを遣わしたのです。それは、誘惑する者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦が無駄にならないようにするためです。
- 3:6 ところが今、テモテがあなたがたのところから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせを伝えてくれました。また、あなたがたが私たちのことを、いつも好意をもって思い起こし、私たちがあなたがたに会いたいと思っっているように、あなたがたも私たちに会いたがっていることを知らせてくれました。
- 3:7 こういうわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦悩と苦難のうちにありながら、あなたがたのことで慰めを受けました。あなたがたの信仰による慰めです。
- 3:8 あなたがたが主において堅く立っているなら、今、私たちの心は生き返るからです。

3:9 あなたがたのことで、どれほどの感謝を神におささげできるでしょうか。神の御前であなたがたのことを喜んでいる、そのすべての喜びのゆえに。

3:10 私たちは、あなたがたの顔を見て、あなたがたの信仰で不足しているものを補うことができるようにと、夜昼、熱心に祈っています。

3:11 どうか、私たちの父である神ご自身と、私たちの主イエスが、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。

3:12 私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、またすべての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。

3:13 そして、あなたがたの心を強めて、私たちの主イエスをご自分のすべての聖徒たちとともに来られるときに、私たちの父である神の御前で、聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。  
アーメン

パウロは明かにテサロニケ教会の人々を愛していました。そしてその信仰をしっかり保つように励ましていたのです。しかしその信仰ゆえに、彼らが迫害に会い、「苦難の中に」あることも事実です。パウロはそれを知っていて、信仰に留まるように励ましたのです。

パウロは愛する者が苦勞をしないように考えなかったのでしょうか。迫害されると知りつつなぜ福音を伝えたのでしょうか。それはそこに永遠のいのちがあるからです。迫害を避けつつ、また苦勞を避けつつ永遠の滅びに至るよりも、苦難にありながらも永遠の救いにあずかる方が良いのは当たり前です。

また神の子となった者は当然、神のために生き

ることが喜びとなり、またそのような者は大切なときに神様から守られ、祝福され、支えられます。

本当の幸いは主のために生きることにあります。本当に恐れるべきなのは、体だけではなく魂も永遠に滅ぼすことのできるお方です。ですから本当の「生きがい」は、永遠のいのちの価値を知って、そのために人々が生きるために勤めることなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 土曜

### テサロニケ I

4:1 最後に兄弟たち。主イエスにあってお願いし、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを私たちから学び、現にそう歩んでいるのですから、ますますそうしてください。

4:2 私たちが主イエスによって、どのような命令をあなたがたに与えたか、あなたがたは知っています。

4:3 神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。あなたがたが淫らな行いを避け、

4:4 一人ひとりがわきまえて、自分のからだを聖なる尊いものとして保ち、

4:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、

4:6 また、そのようなことで、兄弟を踏みつけたり欺いたりしないことです。私たちが前もってあなたがたに話し、厳しく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて罰を与える方だからです。

4:7 神が私たちを召されたのは、汚れたことを行わせるためではなく、聖さにあずからせるためです。

4:8 ですから、この警告を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の聖霊を与えてくださる神を拒むのです。

4:9 兄弟愛については、あなたがたに書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちで、

4:10 マケドニア全土のすべての兄弟たちに対して、それを実行しているからです。兄弟たち、あなたがたに勧めます。ますます豊かにそれを行いなさい。



4:11 また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くことを名誉としなさい。

4:12 外の人々に対して品位をもって歩み、だれの世話にもならず生活するためです。

テサロニケ教会の人々が良い歩みをしているので、パウロはさらに聖となるために勧めています。どんなにすばらしい信仰の告白をしても、聖書の奥義に通じていても、聖なることばで教えを口にしても、その行いが主のみこころにかなわないなら、それは生きた信仰ではありません。パウロは生きた信仰になるように、重要な実際面について勧めています。

不品行とは結婚以外の性的な関係で、それはイエス様を唯一の救い主とする信仰に悪影響を及ぼします。兄弟愛が大切ですが、頼るばかりの人には、「働きなさい」と勧めています。この勧めを自分自身に適用してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 25日 日曜

### テサロニケ I



4:13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。

4:14 イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあつて眠った人たちを、イエスとともに連れて来られるはずですよ。

4:15 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。

4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

4:18 ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。

「眠った人々」とは地上において死んだ人々のことです。今、地上に生きる人々が再臨のイエス様と会うのと同じように、イエス様に会うことができます。ですからそれはまるで眠っているようなものなのです。このように死は終わりではないことを心にとめて、希望を持ちましょう。むしろ楽しみにしてもいいくらいではないでしょうか。

これらの信仰の基本を大切にしましょう。また、「ますますそのように歩」みましょう。それこそが再臨の希望を持つものとして、地上で歩むということです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

